【資料】米子市・淀江町　新市まちづくり計画　修正箇所

事　業　名	実施区分				実施地区	
	実施済	おおむね実施	継続実施	その他	旧米子	旧淀江
③市道整備事業						
（1）市道西原佐陀線道路改築事業		○				○
（2）市道葭津28号線改良舗装事業		○			○	
（3）日原加茂川石井線改良事業	○				○	
（4）市道上和田東線他1改良舗装事業	○				○	
（5）道路整備事業		○			○	○
④橋梁整備事業						
（1）車尾日野橋熊党線日野橋補強事業	○				○	
⑤米子空港の利便性向上						
（仮称）工芸伝承館建設事業 ※弓浜地域老人福祉センター建設事業へ計画変更	（○）				（○）	
⑥ケーブルテレビ整備事業	○					○
⑦電算システム整備統合事業	○				○	○
合計	7件	4件	0件	1件	10件	5件

（仮称）工芸伝統館建設事業は（3）安心して健やかに暮らせる健康・福祉のまちづくりで集計しています。

2. 豊かな自然・歴史環境に包まれた魅力あふれる定住のまちづくり（16件）

事　業　名	実施区分				実施地区	
	実施済	おおむね実施	継続実施	その他	旧米子	旧淀江
①市営住宅建替事業						
（1）町営住宅建設（建替え）事業※		○				○
（2）市営住宅建替事業	○				○	
②公園整備事業						
（1）公園整備事業（東山、弓浜、街区公園等整備）		○			○	
（2）東山公園下水道施設整備事業				○	○	
③旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業	○				○	
④河川改修事業（準用河川堀川）	○				○	

※白浜住宅は建て替えましたが、米子市営住宅長寿命化計画の策定により、大垣住宅は建て替えしないこととしました。

(5)おわりに

市町村合併は、社会情勢の変化や地方分権の担い手となる基礎自治体にふさわしい行財政基盤の確立を目的として、平成 11 年以降、強力に推進されました。旧米子市と旧淀江町は平成 17 年に合併し、その過程において合併協議会によりまちづくり計画が策定されました。財政面での合併効果を検証することを目的に合併協議会が推計した財政シミュレーションによると、旧米子市・旧淀江町が合併しなかった場合、ともに将来的には財源不足になることが予想されていました。まちづくり計画を策定することにより、国の財政支援策を活用することが可能となり、厳しい財政状況の中でも、史跡上淀廃寺跡や図書館美術館、公会堂など多種多様な交流の拠点となる施設の整備のほか様々な投資的事業を実施することができ、同時に重点プロジェクト「伯耆の国文化創造計画」に掲げた文化活動・人材育成の推進や文化情報ネットワークの充実等に取り組むことにより、市民、行政が一体となって、新市の活力を一層高めることができました。これ以外にも国等の財政支援策を活用し、本市発展の礎となる道路、河川、学校等の社会インフラの整備を着実に進め、様々なソフト事業を展開することができたことに鑑みれば、まちづくり計画には国・地方を通じて厳しい財政状況であり、必要な財源の確保を見込むことが極めて困難な状況の中においても、適切な行政サービスの提供と財政基盤の確立の両立において大きな効果があったと言えます。

一方、合併から 15 年間が経過し、様々な取組の結果、本市の財政状況は改善されつつありますが、依然として慎重な財政運営が必要な状況には変わりありません。まちづくり計画の策定時に課題であった、地方分権、少子高齢化、広域的な行政需要への対応等についても継続して取り組んでいる状況にあり、また公共交通の活用、防災対策の充実強化、少子高齢化に伴う扶助費の増額等、新たな地域課題が数多く生じています。そして今後多くの公共施設の老朽化が進み、修繕や改修に係る費用が増加することが想定されています。また、淀江地域においては、特色のある史跡や豊かな自然が集積している地域の特性を十分にいかしているとは言えず、更なる活用の余地が残されています。今後も淀江地域の様々な魅力を高め、淀江地域の資源を新市の全体的な発展につなげる取組を進めていきます。

このように多くの課題がある中でも、本市が継続して活力を保っていくためには、市内の各地域の特性を市全体の発展につなげる視点を持ちつつ、有利な財源の確保に努めるともに、公共施設の適切な配置、AI等の導入による業務効率化と行政サービスの向上、民間活力の活用等の取組を強化していくことが重要となります。

昨今、経済のグローバル化や高度情報化社会の進展、自然災害の激甚化など社会経済情勢は予想を上回る早さで変化しています。このような時代の変化や多様化する地域課題、市民ニーズに遅滞なく的確に対応するため、この 15 年間で培ってきた財政基盤・行政体制を最大限に活用し、常に今日の課題をとらえ直し着実に対処していきます。これにより、まちづくり計画の推進によって得られた成果を将来にわたり市民が享受し実感することできる、時代に即した力あるまちづくりにつながると考えます。